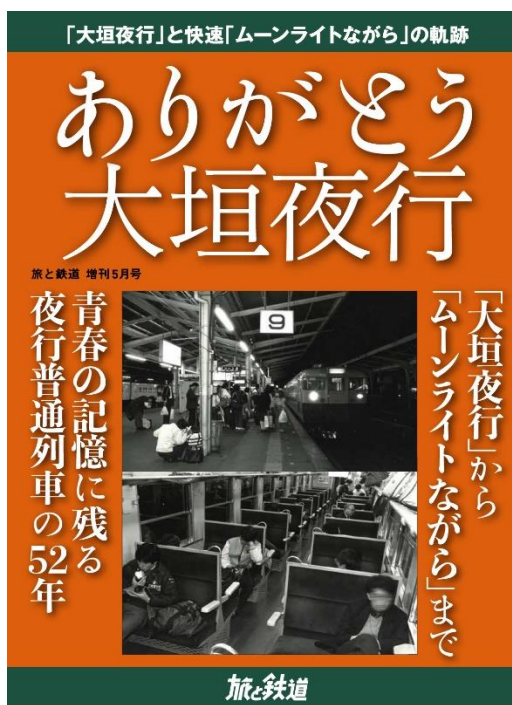


各 位

2021年4月12日
株式会社天夢人

『旅と鉄道』2021年増刊5月号は「ありがとう大垣夜行」
記憶に残る最後の夜行普通列車「大垣夜行」と快速「ムーンライトながら」。
2021年2月に廃止が決まった、東京～大垣間直通列車の軌跡を1冊に！

インプレスグループで鉄道・旅・歴史メディア事業を展開する株式会社天夢人（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：勝峰富雄）は、2021年4月13日に、『旅と鉄道』2021年増刊5月号「ありがとう大垣夜行」を刊行いたします。



1968年～1996年まで夜行普通列車として運行していた通称「大垣夜行」と、1996年～2020年まで運行した快速「ムーンライトながら」。特急料金も急行料金もかからずに東京から名古屋を越えて、岐阜県の大垣まで一夜のうちに移動することができる普通列車だったことから、繁忙期や「青春18きっぷ」シーズンにはあふれんばかりの多くの乗客が利用する人気列車となりました。52年間にわたって東京～大垣間を結んでいた「大垣夜行」と「ムーンライトながら」の軌跡を1冊にまとめました。

快速「ムーンライトながら」24年間の軌跡

全車指定席車両として登場し、通勤利用と差別化された



2022年12月1日、約20年ぶりにムーンライトながらが、JR東日本の新幹線車両に置き換えられ、下り列車が長野駅に到着する瞬間を捉えた。撮影：堀内大志



「ムーンライトながら」は、1998年10月1日のダイヤ改正で登場した。従来の快速列車から、全車指定席車両として登場し、通勤利用と差別化された。当初は、1日1往復のみの運行で、乗客は主に観光客や遠征者であった。しかし、徐々に乗客が増え、現在は1日2往復の運行となっている。

区間	所要時間	乗車料	特等料	グリーン料
東京 → 名古屋	6時間12分	4,330円	16,900円	22,240円
名古屋 → 東京	6時間12分	4,330円	16,900円	22,240円

「ムーンライトながら」は、1998年10月1日のダイヤ改正で登場した。従来の快速列車から、全車指定席車両として登場し、通勤利用と差別化された。当初は、1日1往復のみの運行で、乗客は主に観光客や遠征者であった。しかし、徐々に乗客が増え、現在は1日2往復の運行となっている。

21

「大垣夜行」としての28年間、そして「ムーンライトながら」としての24年間の歴史を、当時の状況や運用、ダイヤの変遷などを踏まえて、分かりやすく詳しく解説しています。

52年間にわたる歴代の車両図鑑も網羅

大垣夜行の車両図鑑 Ⅰ

153系

1968-1983

幹線で活躍した大形電車の元祖




1968年に登場した153系は、大形電車の元祖として活躍した。当時の幹線列車として、大垣夜行にも使われていた。この車両は、当時の技術の粋を集めたもので、大規模なメンテナンスが必要であった。しかし、その堅牢な構造と優れた性能により、長く活躍した。1983年に153系は廃車されたが、その歴史は長く、多くの人々の記憶に残っている。

大垣夜行の車両図鑑 Ⅱ

185系

2013-2021

国鉄時代の概念を打ち破った個性派



2013年に登場した185系は、国鉄時代の概念を打ち破った個性派の車両である。従来の大形電車とは異なり、流線型の車体と大きな窓が特徴的である。大垣夜行にも使われていた。この車両は、最新の技術を取り入れ、快適な乗車環境を提供している。185系の登場は、大垣夜行の歴史に新たなページを刻み出した。

「大垣夜行」として運行した 153 系急行形電車、165 系急行形電車、そして「ムーンライトながら」として活躍した 373 系特急形電車、183・189 系特急形電車、185 系特急形電車の車両図鑑。車両の特徴や、編成などを徹底的に解説しています。

全停車駅を網羅したダイヤを掲載

このページは、大垣夜行のダイヤの変遷について詳しく解説しています。上部には、大垣夜行のダイヤ表が掲載されており、各駅間の所要時間や列車番号が記載されています。また、下部には、ダイヤの変遷に関する歴史的背景や、車両の更新状況などの詳細な説明が記されています。

東京～大垣間を走り抜けた「大垣夜行」「ムーンライトながら」の、代表的な時代のダイヤを選びすぐって、全停車駅の時刻を掲載。ダイヤの変遷についてももしっかり解説しています。

当時の車内の様子もよくわかる、乗車記を掲載



写真だけでは伝わらない、当時の列車に乗ったからこそ分かる様子を乗車記として掲載。1973年の「大垣夜行」にはじまり、2019年の「ムーンライトながら」まで、旅鉄執筆陣による 18 本の乗車記を掲載しています。ボックスシートに L 字で寝る方法、通路やデッキに横になる人など、普通列車の夜行列車らしい懐かしいシーンを振り返ることができます。

隆盛を極めた歴代「ムーンライト」シリーズも徹底解説



「ムーンライト」・「ムーンライトえちご」・「ムーンライト山陽」・「ムーンライト高知」・「ムーンライト松山」・「ムーンライト九州」・「ムーンライト山陰」・「ムーンライト八重垣」・「ムーンライト信州」・「ムーンライト仙台」・「ムーンライト東京」・「ムーンライト松島」・「ムーンライト横浜」と、繁忙期や「青春18きっぷ」シーズンを中心に全国を結んだ歴代「ムーンライト」シリーズも当時の写真とともに解説しています。

「大垣夜行」同様に記憶に残る長距離夜行普通列車の世界へ



「大垣夜行」同様に、普通列車として夜行運行していた「からまつ」「南紀・はやたま」「山陰」・「ながさき」・「中央本線 441M・442M」と記憶残る列車を当時の懐かしい写真とともに紹介しています。

【書誌情報】

書名：『旅と鉄道』2021年増刊5月号「ありがとう大垣夜行」

仕様：A4変型判・96ページ

定価：1375円（税込）

発売日：2021年4月13日

全国書店、オンライン書店のAmazonなどで発売中。

<https://amzn.to/3l9WfqR>

【株式会社天夢人】 <https://temjin-g.com/>

2007年設立。隔月刊雑誌『旅と鉄道（奇数月21日発売）』をはじめとする、鉄道・旅・歴史・民俗・カルチャーをテーマとした雑誌や書籍を発行し、人生を豊かにするための情報を発信しています。

【インプレスグループ】 <https://www.impressholdings.com/>

株式会社インプレスホールディングス（本社：東京都千代田区、代表取締役：松本大輔、証券コード：東証1部9479）を持株会社とするメディアグループ。「IT」「音楽」「デザイン」「山岳・自然」「モバイルサービス」「学術・理工学」「旅・鉄道」を主要テーマに専門性の高いメディア&サービスおよびソリューション事業を展開しています。さらに、コンテンツビジネスのプラットフォーム開発・運営も手がけています。

以上

【本件に関するお問合せ先】

株式会社天夢人 担当：真柄

Tel: 03-6413-8755 / E-mail: tabitetsu@temjin-g.co.jp

URL: <https://temjin-g.com/>